

やまなし幼児教育センターだより

令和5年10月発行



やまなし幼児教育センター
〒400-8510
甲府市武田四丁目4-37(山梨大学内)
☎055-220-8143

「幼保小の架け橋プログラム」に基づいた保幼小連携・接続

令和4年3月31日付けて、文部科学省から「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」が示されました。「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期(義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間)にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に個別最適な学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

保幼小連携・接続の重要性は従前より指摘されていましたが、今求められている連携・接続は、関係者が連携しながら、**子供の育ちや学びの連続性を保障**し、円滑に接続することです。

「幼保小の架け橋プログラム」の実施については、全国19地区がモデル地区となり実施を進めているところですが、本県でもいくつかの市町村において、「幼保小の架け橋プログラム」に基づいた保幼小連携・接続が進められています。新たな組織をつくって実施したり、今まであった組織の内容を見直して実施したりと、地域の実態に合わせて進めています。

今回は、取組事例として3つの自治体の取組概要を紹介します。



◆ 幼児教育推進協議会の設置による取組(甲州市)

【目的】市の幼児教育の現状や課題を踏まえ、今後必要な取組を計画的に実施し、架け橋期の教育の推進を図る

【今年度の取組】

- ・協議会の立ち上げ(6月)
- ・小学校や園訪問による相互参観(6月~8月)
- ・教育講演会(11月)
- ・「期待する子供像」についての話し合いと共通理解(2月)

◆ 町教育協議会幼年部会と町教育センターの連携による取組(富士河口湖町)

【目的】幼児期と小学校期の教育

についての相互理解を深める

【今年度の取組】

- ・学習会(4月)
- ・町教育センターによる保幼小の教員及び年長保護者への意識アンケート実施(6月)
- ・保幼小の情報交換会(6月)
- ・園訪問による参観(8月)
- ・スタートカリキュラム見直しや共有(10月~)

◆ 保小連携会議の設置による取組(山中湖村)

【目的】幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続し、組織的に支えていく

【今年度の取組】

- ・会議の立ち上げ(6月)
- ・連携・接続についての共通理解(6月)
- ・相互参観(7月)
- ・合同研修会(8月)
- ・連携・接続の在り方検討(8月)
- ・カリキュラム見直し(10月~)

やまなし幼児教育センターでは、令和5年3月に「**やまなし保幼小連携・接続ガイド~子供の育ちと学びをつなぐ~**」(HPに掲載)を作成しました。「幼保小の架け橋プログラム」に基づいた保幼小連携・接続の意義、取組例等をまとめてあります。ぜひ、今後の取組の参考としてください。



各種研修会の実施

やまなし幼児教育センターでは、昨年度作成した「保育者等育成指標モデル」に基づき、公立・私立、幼稚園・保育所・認定こども園等を問わず保育者等を対象に、キャリアステージに応じた基本研修、課題に応じた専門研修を行い多くの方々に参加していただいています。

研修会においては、講師の講義だけでなく、参加者の皆様の情報共有の時間をとっています。意見交流の機会を積極的に取り入れることで、研修テーマの理解を深めるとともに、園・所を越えた横のつながりが芽生え、保育について学び合う機会となっています。

【受講者の声】



改めて、保育者が子供に与える影響は大きいことを学んだ。保育者の行動や発言の一つ一つを子供はよく観察しているということを入れて過ごしていきたい。（新規採用教員研修会より）



効率よく、大人にとって都合よくすすめる保育の中では、これから生きていく子供の力は育っていかない。だからこそ、子供の声を聴き取り、記録して、聴き取り直す実践、子供の声が生きていく実践を目指していきたい。（中堅教員等資質向上研修会より）



職員の人柄、能力、経験など様々でチームとして保育にあたる難しさがある。その中で今回のチーム作りの話は新鮮で参考になり明日からどんな風にしようかとわくわくしてきた。（管理職研修会より）



幼児教育アドバイザー訪問事業を活用した園内研修

やまなし幼児教育センターの幼児教育アドバイザーは、大学の先生方に依頼しています。このことは、本県の大きな特徴です。

今年度は、幼児教育アドバイザー訪問事業を活用し、単発的な園内研修に取り組むだけでなく、事業を取り入れた継続的な取組が広がってきています。園・所の課題や研修・研究に外部の視点を入れながら学び続けることは、現在目の前にある課題に対応する新たな視点を獲得のみならず、自園・所の保育・教育全体の質、ひいては保育者等の質の向上につながります。

幼児教育アドバイザーとともに考える園内研修を行う中で、「次はこうしてみたい」「ここは改善できるよね」といった、前向きな声が挙がっています。今年度は、2月までの訪問要請を受け付けています。ぜひ、ご活用ください。

【活用園・所の声】

- 実際に職員が振り返りをしている様子を見ていただいた上でのアドバイスだったので、自園の保育の振り返りについて見直す貴重な機会になりました。
- お互いの見方、考え方を聞き合う、語り合う「カンファレンス」の必要性に改めて気付きました。多様性を認め合うことで、全体が繋がり、質も上がっていくのだと感じました。今後も、継続的に指導いただきたいです。



「やまなし保幼小連携・接続ガイド～子供の育ちと学びをつなぐ～」、「幼児教育アドバイザー活用の手引き」及び申請書等は、やまなし幼児教育センターのホームページに掲載しています。活用したいと思われましたら、ぜひ、電話（055-220-8143）でお問い合わせください。



やまなし幼児教育

